

Reader's Voice

2014年春号特集「集団の中で『主体性』を育むために園ができること」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生がたからのご意見をご紹介します。

*『これからの幼児教育』のバックナンバーは、「ベネッセ教育総合研究所」のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎鯨岡先生のインタビューを読んで、「^{けいごう ききゅう} 繫合希求欲求」という言葉を初めて知りましたが、「なるほど!」ととても納得しました。私は今、年長児を担当しているのですが、まさにこの自己充実欲求と繫合希求欲求のバランスがうまくとれるような保育を心がけているので、とても参考になりました。(栃木県・私立幼稚園)

◎品川区立平塚すこやか園の「運動会」の中での主体性を育てる保育は、とてもわかりやすく、同じ公立園として参考になりました。まず、基礎となる部分に、保育者との信頼関係があり、そのための適切な言葉かけ、見守り、援助など、質の高い保育に感心しました。子どもたち一人ひとりの丁寧な見方や方向性の出し方など勉強すべき点がたくさんありました。「～してあげる」「～させる保育」から、一緒に考え、子どもの気持ちを引き出す保育への転換が必要だと気がつきました。(富山県・公立幼稚園)

◎子どもを「主体」としてとらえることが大切であるとわかっていても、実際の保育が始まるとクラス一人ひとりの「主体」を考えてばかりいられないジレンマの中で、現場の先生たちが日々、葛藤しながら、子どもと向き合っています。そのような中で、鯨岡先生の

「『私』と『私たち』ふたつの心が主体をつくる」という見出しが心に響きました。子どもの「主体性」に光がさした感じがし、すぐに現場の先生たちに紹介しました。これから、この内容をどう保育に活かしていくか……実践あるのみです!(岐阜県・私立幼稚園)

◎大人がよかれと思っていることが、子どもにとっては過剰な援助である場合がある……この言葉にハッとさせられました。手助けしてやるのが保育者の援助と思いがちですが、自分から何かをしようという気持ちが起こるような援助をしていきたいです。(三重県・公立幼稚園)

◎鯨岡先生の解説を読んで、「そうそう!」と共感したり、「私もこういうことが言いたかった!」と納得したりしました。「私たちは自分で自分を好きになるから満足なのではなく、実は周囲の人が認めてくれる自分だからこそ、自分のことを肯定できるのであり、実際には他者の存在が欠かせません」という内容は本当に共感しました。このような保育が実践できたら、子どもの自尊感情が高まると思いました。(大阪府・公立幼稚園)

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、子どもたちの成長に寄り添う研究と社会への発信を通して、一人ひとりが学びに向かい、今と未来を“よく生きる”ことに貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

取材で、ある園の園庭を見学しました。子どもの遊びの質を考えた工夫が園庭にちりばめられていて、感動しました。でもそれがわかったのは園長先生から補足説明を受けながら見学したからこそ。自分の目で見ただけでは気づかない点ばかりでした。保護者も私と同じかもしれません。保育の「結果」だけでなく、「先生がたの思い」を伝えることが大事だということを感じました。(橋村)

『これからの幼児教育』2014年夏号

2014年5月31日発行

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行者 (株)ベネッセホールディングス
ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 二宮良太
撮影協力 ヤマガチイッキ、荒川潤、谷口哲
イラスト協力 アサマリカ

お問い合わせ先

◎情報編集室
〒206-0033 東京都多摩市落合1-34
電話:042-311-3390
※本誌は最新号・バックナンバー等の追加発送は行っていません。すべての記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからPDFでご覧いただけます。ぜひご利用ください。
<http://berd.benesse.jp>